

令和3年度 秋のコレクション展 「草土社の作家たち」

9月4日(土)～11月23日(火・祝)
豊橋市美術博物館 2階第5常設展示室

岸田劉生を中心として大正4年に結成された草土社には、ヒュウザン会時代からの仲間であった清宮彬・木村莊八のほか、椿貞雄・中川一政・横堀角次郎、そして豊橋出身の高須光治など、劉生に傾倒する若者たちが集いました。社名は劉生が代々木界隈の赤土と草を好んで写生したこと由来します。当時、デューラーやファン・アイクなど北方ルネサンスに傾倒していた劉生は、自ら「写実的神秘派」と称して同人たちとともに写実表現を探求し、時代に逆行するとの批判を浴びながらも熱心な追随者を生み出しました。

当館では昭和62年の「高須光治と草土社」展開催後に、《高須光治君之肖像》を高須本人から受贈し、これを端緒として草土社メンバーの作品を収蔵してきました。現在、劉生作品6点のほか、木村・椿・中川・横堀・河野の作品をコレクションしています。

平成30年度には中島正貴の作品を受贈しました。中島は高須と深く親交し、その縁で当地に大正5年より逗留しています(その後、浜松市に転居)。このたび、修復を終えた同作品を初めて公開いたします。劉生をはじめとする草土社メンバーの作品とともに、大正期に彼らが目指した写実表現をあらためてご覧ください。

作者名	作品名	制作年	寸法(cm)	材質	受入
1 岸田劉生	高須光治君之肖像	1915(大正4)年	45.5×37.6	板、油彩	昭和62年度高須光治氏寄贈
2 岸田劉生	卓上林檎葡萄之図	1918(大正7)年	24.0×33.4	板、油彩	平成7年度購入
3 木村莊八	襟巻きをせる自画像	1916(大正5)年	45.0×27.0	紙板、油彩	平成24年度購入
4 椿 貞雄	砂利の敷いてある道	1916(大正5)年	41.0×41.0	麻布、油彩	平成9年度購入
5 椿 貞雄	冬瓜図	1925(大正14)年	50.6×61.0	麻布、油彩	平成7年度購入
6 横堀角次郎	田舎の道	1919(大正8)年	46.1×53.4	麻布、油彩	平成9年度購入
7 中川一政	静物	1924(大正13)年	23.5×32.4	紙板、油彩	平成元年度購入
8 中島正貴	沼	1922(大正11)年	40.8×52.7	麻布、油彩	平成30年度青山幸子氏寄贈
9 高須光治	上原風景	1933(昭和8)年	40.5×53.0	麻布、油彩	平成3年度高須雅氏寄贈

「物語と絵画」

河野通勢『項羽と劉邦』原画 1921(大正10)年

※ <前期展示> 9月4日(土)～10月17日(日)

<後期展示> 10月19日(火)～11月23日(火・祝)

作者名	作品名	制作年	寸法(cm)	材質	受入
※10	第2幕第1場「洗濯する桃娘と釣りをする韓信」		30.0×20.8	紙、墨	平成3年度購入
※11	第3幕第1場「虞姫少年姿の桃娘を可愛がる」		25.8×34.3	紙、墨	平成3年度購入
※12	第5幕第2場「韓信の館を逃げ出す虞姫と李左車」		25.2×34.5	紙、墨・着彩	平成3年度購入
※13	第5幕第3場「最後の舞の虞姫と腰元」		25.5×34.3	紙、墨	平成3年度購入
14	第2幕第1場「兵隊の中で劉邦萬歳と叫ぶ桃娘」		24.5×34.5	紙、墨	平成3年度購入
15	第3幕第1場「項羽が劉邦を殺そうとするが、桃娘が舞いながら邪魔をする」		25.5×34.3	紙、墨	平成3年度購入
16	第3幕第2場「韓信と桃娘、ダツタン人の三人」		25.5×34.5	紙、墨	平成3年度購入
17	第4幕第2場「項羽が鶴を殺す、虞姫から目出度いといわれ」		34.0×25.2	紙、墨・着彩	平成3年度購入
18	大詰 「逃げる項羽を殺さんとする張良曹參」		25.5×34.0	紙、墨	平成3年度購入
19	大詰 「項羽を葬る劉邦」		25.7×34.7	紙、墨	平成3年度購入

資料 草土社展出品目録

資料名	刊行年	表紙作者名	備考
1 現代の美術社主催第1回美術展	1915(大正4)年	岸田劉生	※第1回草土社展
2 第2回草土社展	1916(大正5)年	岸田劉生	2冊 ※うち1冊は高須光治遺品
3 第3回草土社展	1916(大正5)年	岸田劉生	
4 第5回草土社展	1917(大正6)年	清宮 彬	
5 第8回草土社展	1920(大正9)年	清宮 彬	平成30年度青山幸子氏より寄贈
6 第9回草土社展	1922(大正11)年	河野通勢	平成30年度青山幸子氏より寄贈